

歯科医師
の声

患者さん自身が気づいて 行動を起こしています

今年3月、佐藤康正先生が沖縄県うるま市で開業したアガチャ歯科。アガチャとは沖縄県北部(やんばる)の森を懸命に駆け回るヤンバルクイナのこと、地域の人たちに地に足の着いた診療を提供するという意味が込められています。

予防のために導入しただ液検査とMI (Motivational Interviewing) について、お話を聞きました。



アガチャ歯科(沖縄県)
歯科医師 佐藤 康正 先生

患者さんに響く

『デントカルト』を選びました

もともと手先が器用なほうだったので、学生時代から治療の面白さを感じていました。でも、治療の話をいろいろ聞いているうちに「そこじゃないんじゃないか?」と思うところもあって。

勤務医のとき、自分の仕事の意義や将来を考えるようになりました。患者さんには歯科医院に楽しく通ってほしいし、スタッフも自分も楽しく働きたい。それには予防だな、と思ったんです。

予防歯科の開業に向けて勉強するうちに行き着いたのが、予防をするならリスク評価は必須、という考え。そのためのだ液検査

査にもいろんなものがあります。が、患者さんに響かなければ意味がありません。いくつか試してみても『デントカルト』を選びました。検査結果をビジュアルで見せられるので患者さんがピンと来るし、コミュニケーションのよい材料になると思ったからです。

自分が求めていたものを発見!

だ液検査を使ってコミュニケーションをとるために参考にしたいのがMIの書籍です。

予防とは「自分の人生の選択を自分でする」ということ。自らの健康を自らの手で選択する喜びを感じていただきたいと思います。

ています。そこで大切なのは、患者さん自身が気づいて行動変容を起こすことです。歯を守っていくためには一番必要ですが、とても難しく、考えれば考えるほどコミュニケーションがキーポイントになると思っただけです。そんなとき、MIの書籍にあった「答えは患者さんの中にある」という捉え方にハッとしました。私が求めていたものはこれだな、と。

そこから歯科衛生士と一緒にMIを学び、取り組み始めました。たとえば、自分の歯を見てもらうてどう思ったのかを問いかける。こちらから教えるのではなく、患者さんが自分の内面で答えを見つけられるような対話を心がけています。

患者さんが、自ら選んで取り組んでいます

抜歯のセカンドオピニオンで70代の女性が来院しました。だ液検査をすると、全体的に菌が多くてハイリスク。カリオグラムを使って「こういう結果が出ています。どう思いますか?」と提示しながら、一緒に客観的事実を認めていきました。すると、ショックを受けてため息をつきながらも「こんなにしっかり説明してもらったのは初めて」と反応が。

お話をよく聞いてみると、セルフケアの道具をいろいろ使っているのに悪くなっていました。このサイクルが止まらず、不安や疑いを持っていたことがわかった

んです。そこで、患者さんに寄り添いながら一緒にケアの方法を考えていきました。道具の使い方を少し変えたらすごく数値が変わってきて、大喜びしていましたね。

その後は、キシリトール配合のガムやフッ素洗口など、来院のたびに患者さんが自ら選んで取り組むようになったんですよ。

ここ沖縄で、アガチャ歯科の理念を実現していきたい

セカンドオピニオンを行なった歯は抜歯になってしまいました。が、今ある歯を予防していくという成果につながっています。口腔内に関心を持って元気に通い

続けているので、私たちもうれしいですね。だ液検査を通したコミュニケーションで行動変容を起こし、楽しく通ってもらおう。これが私のやりたかった予防です。

当院の理念は「うれしい循環」。

きれいな森や海も、人間が丁寧にお手入れするからよい循環が保たれます。患者さんと私たちの関係も同じですよ。心身ともに健康なスタッフたちが気持ちよくのびのび働く。それが患者さんに伝わり、メインテナンスを通してお口の中によい環境が生まれる。そんな患者さんが楽しく通ってくれる。そうすると私たちもやりがいをもって働ける。この循環を、当地域でもっともって回していきたいと思っています。



#02

『新規開業サポート』を受けた歯科医院の声
アガチャ歯科(沖縄県)



新規開業サポートの詳細・お申し込みは、
QRコードからご覧ください。



「歯を守る」口腔ケア推進のパートナー

株式会社オーラルケア 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-32-9 FreeDial:0120-500-418 ■ <https://www.oralcare.co.jp/>

無断での複写・複製、転載はお断りします。Copyright©2023. OralCare All Rights Reserved. SM2307

だ液検査をベースにした 歯科医院づくりがスムーズに!

2023年3月、沖縄県うるま市にて新規開業したアガチャ歯科。
だ液検査の導入をきっかけに、新規開業サポートを受けることになりました。
目指す医院づくりを進めるなか、どんなサポートが学びにつながったのか。
院長の佐藤康正先生に伺いました。



INTERVIEW

アガチャ歯科

院長 やすまさ
佐藤 康正先生

患者さんが楽しく通い、 スタッフも自分も楽しい歯科医院に

勤務医時代にやっていたのは主に治療です。主訴が解消すれば患者さんはいったん来なくなり、数ヶ月後に同じところがむし歯になったりするとまた来院。そういう繰り返しがちよこちよこあって、自分の仕事の意義をあまり感じなくなっていました。なんとなく、虚しさもありましたね。だから、妻の地元である沖縄県うるま市で開業するようになったとき、じっくり考えたんです。

「患者さんに楽しく通ってもらえて、自分もスタッフも 楽しく働くにはどうしたらいいか？」

そのなかで行きついたのが、「予防」を中心とした医院づくりです。
スウェーデンで学んだ先生の本をはじめ、さまざまな予防関連の勉強をするうちに、予防をするならリスク評価が必須^①という考えも学びました。開業と同時にだ液検査のシステムを取り入れ、それをベースに患者さんと関わる診療を今、少しずつ確立していついてるところです。

患者さんの行動変容を引き出す コミュニケーションの理解が深まった

『新規開業サポート』を利用することにしたのも、だ液検査の導入がきっかけです。どう提案し、どんな手順でどう実施していけばいいかを相談するところからスタート。一人ひとりに合った対策の伝え方や具体的なアイテムまで、オンラインで何度も相談に乗っていただきました。

なかでも学ぶところが大きかったのが、MI^{※1}(Motivational Interviewing)です。歯を守るうえでキーポイントとなるのは、だ液検査それ自体じゃなく、検査を通じていかに患者さん自身に気づいてもらい、いかに自ら行動変容を起こしてもらうか。だけどそれは、一番難しいことでもあるんです。^{※2}MIの書籍を読んで「求めていたのはこれだ!」と思っていましたが、詳しく解説していただいたことで理解がグッと深まりました。

たとえば、「答えは患者さん自身の中にある」という捉え方にはハッとさせられました。医療者である僕らはどうしても答えを教えようとしてしまいます。でもそれは意味がなくて、患者さんが自分で答えを見つけられるようお手伝いをするのが自分たちの本来の役割なんですよね。

だ液検査の結果や口腔内写真を見せたときはまず、「どう思いましたか?」という問いかけから。しっかり時間を使い、患者さん自身に考えて言葉にしてみてください。スタッフみんなで大切にしています。

^{※1} 健康になるために必要な事柄に患者自身が気づき、行動するのを助ける対話の手法。
^{※2} 『世界の医療界が変わった、MIの『問いかけ話法』』

得られた情報や技術は、 100パーセント臨床に活用!

だ液検査のシステムづくりやコミュニケーション、「キシリトール」や「ハイドロキシアパタイト」といった予防製品の説明など。新規開業サポートで得た情報や技術は、100パーセント臨床に活かせています。

そしてその精度をもっと上げるために、日々試行錯誤しているところです。予防の仕組みを経営的にも、職場環境としてもしっかり成り立たせていきたい。それが目下の目標ですね。

NEXT
DH interviews



歯科衛生士さんのコメント



瀬戸かおりさん

だ液検査を患者さんに提案していくうえで、うまく説明できるのかな、やる意味をちゃんと理解してもらえるのかな、と心配でした。でも「こんな患者さんの場合は……」とオンラインで相談させていたしながら何人かやっていくうちに、ちよつとずつ説明できるようになりました。



川満若菜さん

これまではプラークを落とすだけの指導ばかりだったので、MIの「患者さん自身に考えてもらう」という考えには気づかされることが多かったです。実際に共感しつつ寄り添うような話し方をすると、口腔内をより良くすることへ自然と興味を持ってもらえたり、心を開いてもらえたり。患者さんの反応がちよつとずつ変わってきてうれしいです！